

長野経済研究所プレスリリース ～消費動向調査結果(2021年年末調査)～ 今年を表す漢字は2年連続で「耐」

本調査は、来年の消費動向を見通す参考として、景況感や消費意識に関わるテーマについて、県内世帯を対象に実施した。

調査結果のポイント

<県内消費者の今年を表す漢字一文字>

1位は「耐」。新型コロナウイルスによる自粛や制限下の生活が影響

- ・ 2021年を表す漢字一文字は、1位「耐」、2位「忍」、3位「苦」、4位「静」、5位「変」。

<今年印象の強かった出来事>

- ・ 1位「新型コロナのワクチン接種開始」、2位「東京オリンピック・パラリンピック」、3位「大谷翔平アメリカン・リーグでMVP獲得」。

<世の中の景気の見方>

- ・ 22年の景気は、「良くなる」と「やや良くなる」を合わせた4割が改善するとの見通し。

<自身の生活(家計)の見方>

- ・ 22年の生活(家計)は、「悪化」の見方が「改善」を上回った。

<耐久消費財の購入意向>

- ・ 22年に購入したい耐久消費財は、「スマートフォン」、「パソコン」、「4K・8Kテレビ」が上位。

<余暇の過ごし方>

- ・ 22年の余暇を主にどのよう過ごしたいかは、「県外旅行」、「県内旅行」、「温泉施設」が上位。

<商品・サービスの購入(利用)経験・意向>

- ・ 22年は21年に比べ、「電気自動車(EV)」や「ふるさと納税」の購入(利用)意向が高まる。

<意識している取り組み>

- ・ 22年は21年に比べ、「趣味・遊びの充実」や「友人・恋人との交流」への意識が高まる。

<新型コロナをきっかけに進むと思う変化>

- ・ 「キャッシュレス化」、「インターネットショッピングの利用」、「マスク着用の定着」などが上位。

<新型コロナの影響で我慢・見送った消費>

- ・ 「国内旅行」や「大人数での宴会やパーティー」、「少人数の外出」、「日帰り旅行」が上位。
- ・ 22年に改めて消費したいとする回答割合は、「国内旅行」が最も多く、次いで「少人数の会食」、「日帰り旅行」などとなった。

～ 調査から見る21年の振り返りと22年の展望 ～

- ・ 21年の消費者の行動は、20年と同様に新型コロナの感染状況に左右された。このことが、マイナスイメージを持った漢字(「耐」「忍」「苦」など)が多く挙げられたことや、余暇の過ごし方の上位が家庭内のできる「スマホいじり」や「庭いじり・園芸・家庭菜園」、「読書」だったことに表れている。
- ・ 22年の消費は、感染の再拡大がなければ、余暇の過ごし方や22年に改めて消費したいことで上位となった旅行や外出などを中心に持ち直すとみられる。

<お問い合わせ先>

一般財団法人 長野経済研究所 電話：026-224-0501
担当：調査部 主任研究員 寺嶋 孝太郎
研究員 佐藤 翔胤

【調査の概要】

「消費動向調査」アンケート実施概要

調査時期： 2021年11月下旬～12月上旬

調査対象： ブルーカード会員のうち、
長野県内在住の消費者 2,638世帯

回答属性： 性別 男性 43.3% 女性 56.7%

年代

20代以下	2.7%
30代	10.4%
40代	25.1%
50代	32.2%
60代	20.5%
70代以上	9.0%

居住地

北信	60.4%
東信	6.0%
中信	18.0%
南信	15.7%

調査方法： インターネット調査

※四捨五入の関係で、合計が100%にならない場合がある。

<県内消費者の今年を表す漢字一文字>

◆ 21年を表す漢字：1位は2年連続で「耐」

- ・ 21年を表す漢字一文字は、「耐」が前年と同様最も多かった。次いで「忍」「苦」「静」「変」などとなった（図表1）。
- ・ 「耐」と「忍」はいずれも前年と同順位となったほか、回答割合も前年に比べ増加している。新型コロナウイルス（以下、新型コロナという）の感染拡大からおよそ2年が経過し、外出自粛などの制限に耐え忍んでいることがうかがえる。
- ・ 20位には、新型コロナの影響で1年延期して開催された東京オリンピック・パラリンピックに関連する「金」や「輪」がランクインした。

図表1 今年を表す漢字一文字（上位20字）

順位		漢字	回答割合(%)	
21年	20年		21年(n=2,638)	20年(n=2,861)
1→	1	耐	11.07	9.89
2→	2	忍	10.08	9.40
3↑	5	苦	5.95	4.58
4↑	11	静	3.45	1.75
5↑	6	変	3.15	3.53
6↓	3	禍	2.88	7.24
7↓	4	病	2.73	5.52
8↑	9	冢	2.08	2.31
9↑	-	忙	1.40	0.77
10↑	17	疲	1.06	0.94
11↑	16	無	1.02	1.12
12↑	14	難	0.99	1.40
13↑	17	幸	0.83	0.94
13↑	-	悲	0.83	0.70
13↑	-	平	0.83	0.31
13↑	-	迷	0.83	0.42
17↑	20	暗	0.80	0.87
17↑	-	減	0.80	0.59
17↑	20	新	0.80	0.87
20↓	12	悪	0.76	1.68
20↑	-	金	0.76	0.14
20↑	-	悩	0.76	0.31
20↑	-	輪	0.76	-

(注) 矢印は20年と比べた順位の変化を表す

「-」は、20年において、順位では21位以下、回答割合では回答なしを表す

<今年印象の強かった出来事>

◆ 21年で印象の強かった出来事：1位は「新型コロナのワクチン接種開始」

- ・ 21年で印象の強かった出来事は、1位が「新型コロナのワクチン接種開始」で回答割合は84.8%だった。次いで「東京オリンピック・パラリンピック」(70.4%)、「大谷翔平アメリカン・リーグでMVP獲得」(52.8)などとなった(図表2)。
- ・ 新型コロナ関連以外では、スポーツや結婚に関する出来事の印象が強くなった。

図表2 全国で印象の強かった2021年の出来事(上位15項目)

順位	出来事	回答割合 (n=2,638)
1	新型コロナのワクチン接種開始	84.8
2	東京オリンピック・パラリンピック	70.4
3	大谷翔平アメリカン・リーグでMVP獲得	52.8
4	眞子様ご結婚	36.2
5	首都圏を中心とした緊急事態宣言	23.1
6	岸田首相誕生	22.2
7	星野源・新垣結衣結婚	19.6
8	松山英樹マスターズ優勝	14.2
9	衆議院解散総選挙	11.5
10	9月30日を期限に緊急事態宣言等が全国一斉解除	9.5
11	日経平均株価が30年半ぶりに3万円台を回復	8.8
12	円相場が4年8カ月ぶりに1ドル=115円の円安ドル高水準に	8.0
13	みずほFGで相次ぐシステム障害	7.5
14	白鵬引退	5.7
15	大坂なおみ全豪オープンテニス優勝	4.4

(注) 5つまでの複数回答

<参考>年代別にみた、全国で印象が強かった2021年の出来事（上位10項目）

20代以下

順位	出来事	回答割合
1	新型コロナのワクチン接種開始	84.7
2	東京オリンピック・パラリンピック	70.8
3	星野源・新垣結衣結婚	33.3
3	眞子様ご結婚	33.3
3	大谷翔平アメリカン・リーグでMVP獲得	33.3
6	岸田首相誕生	25.0
7	首都圏を中心とした緊急事態宣言	9.7
7	9月30日を期限に緊急事態宣言等が全国一斉解除	9.7
7	みずほFGで相次ぐシステム障害	9.7
10	円相場が4年8カ月ぶりに1ドル=115円の円安ドル高水準に	6.9

50代

順位	出来事	回答割合
1	新型コロナのワクチン接種開始	84.2
2	東京オリンピック・パラリンピック	71.8
3	大谷翔平アメリカン・リーグでMVP獲得	55.4
4	眞子様ご結婚	35.1
5	首都圏を中心とした緊急事態宣言	23.9
6	岸田首相誕生	22.2
7	星野源・新垣結衣結婚	19.2
8	松山英樹マスターズ優勝	15.5
9	衆議院解散総選挙	9.6
10	9月30日を期限に緊急事態宣言等が全国一斉解除	8.4

30代

順位	出来事	回答割合
1	新型コロナのワクチン接種開始	81.5
2	東京オリンピック・パラリンピック	69.8
3	眞子様ご結婚	42.9
4	星野源・新垣結衣結婚	42.2
4	大谷翔平アメリカン・リーグでMVP獲得	42.2
6	岸田首相誕生	22.2
7	首都圏を中心とした緊急事態宣言	16.7
8	衆議院解散総選挙	9.8
9	9月30日を期限に緊急事態宣言等が全国一斉解除	8.0
10	日経平均株価が30年半ぶりに3万円台を回復	6.5
10	みずほFGで相次ぐシステム障害	6.5

60代

順位	出来事	回答割合
1	新型コロナのワクチン接種開始	86.7
2	東京オリンピック・パラリンピック	72.3
3	大谷翔平アメリカン・リーグでMVP獲得	63.8
4	眞子様ご結婚	32.9
5	首都圏を中心とした緊急事態宣言	26.2
6	松山英樹マスターズ優勝	22.0
7	岸田首相誕生	21.6
8	衆議院解散総選挙	15.2
9	日経平均株価が30年半ぶりに3万円台を回復	12.4
10	円相場が4年8カ月ぶりに1ドル=115円の円安ドル高水準に	11.3

40代

順位	出来事	回答割合
1	新型コロナのワクチン接種開始	83.3
2	東京オリンピック・パラリンピック	69.4
3	大谷翔平アメリカン・リーグでMVP獲得	44.5
4	眞子様ご結婚	42.8
5	星野源・新垣結衣結婚	25.2
6	岸田首相誕生	20.8
7	首都圏を中心とした緊急事態宣言	18.1
8	松山英樹マスターズ優勝	9.2
9	9月30日を期限に緊急事態宣言等が全国一斉解除	8.9
10	衆議院解散総選挙	8.1

70代以上

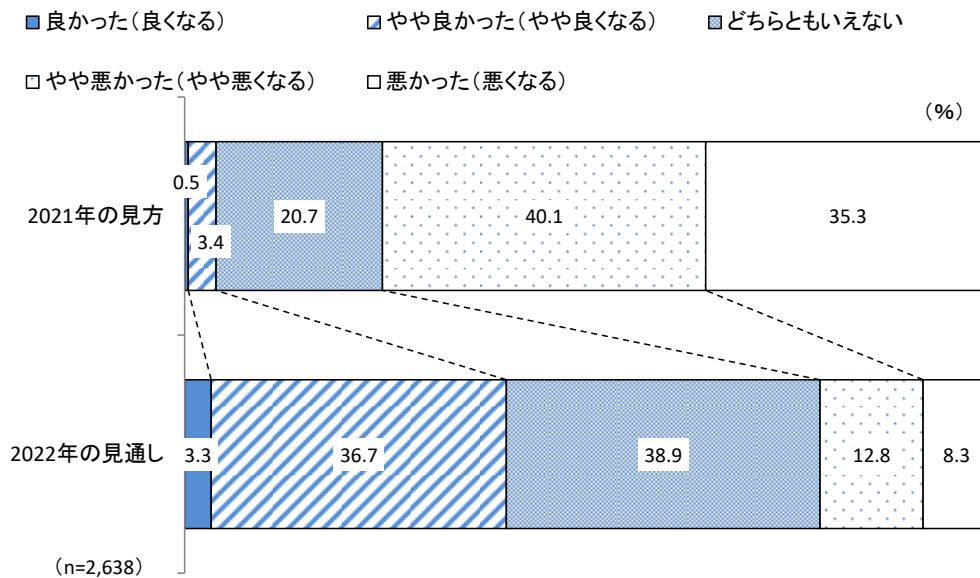
順位	出来事	回答割合
1	新型コロナのワクチン接種開始	90.3
2	東京オリンピック・パラリンピック	64.6
3	大谷翔平アメリカン・リーグでMVP獲得	59.5
4	首都圏を中心とした緊急事態宣言	38.8
5	岸田首相誕生	26.2
6	衆議院解散総選挙	23.2
7	眞子様ご結婚	22.8
8	松山英樹マスターズ優勝	19.4
9	円相場が4年8カ月ぶりに1ドル=115円の円安ドル高水準に	19.0
10	9月30日を期限に緊急事態宣言等が全国一斉解除	15.2
10	日経平均株価が30年半ぶりに3万円台を回復	15.2

<世の中の景気の見方>

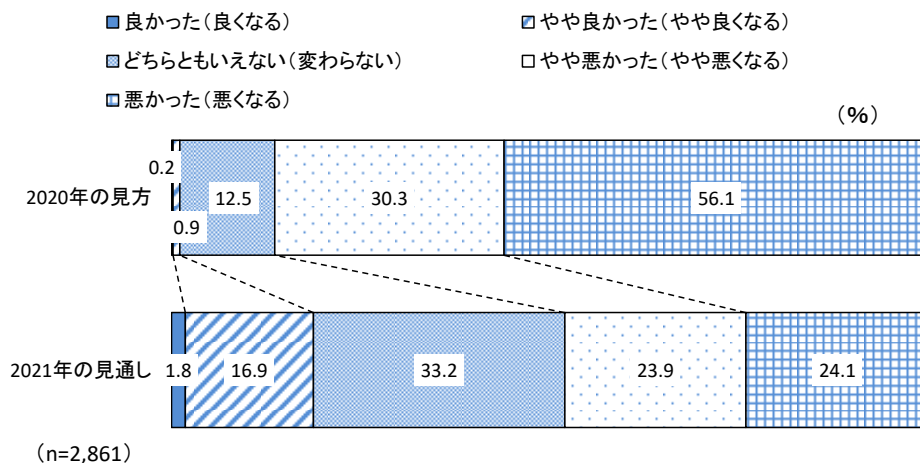
◆ 22年の世の中の景気：4割が「改善」するとの見通し

- 21年の「世の中の景気」については、「悪かった」が35.3%、「やや悪かった」が40.1%となり、8割近くが景気を「悪い」と回答した（図表4）。新型コロナの感染拡大による度重なる緊急事態宣言の発令などが影響したとみられる。
- 22年の見通しは、「良くなる」が3.3%、「やや良くなる」が36.7%と、合わせて4割が「改善」を見込んでいる。この背景には、ワクチン接種が進んだことや、9月末の緊急事態宣言解除以降の新規感染者数が落ち着いていることなどが考えられる。

図表4 世の中の景気の見方



(参考資料) 2020年調査結果

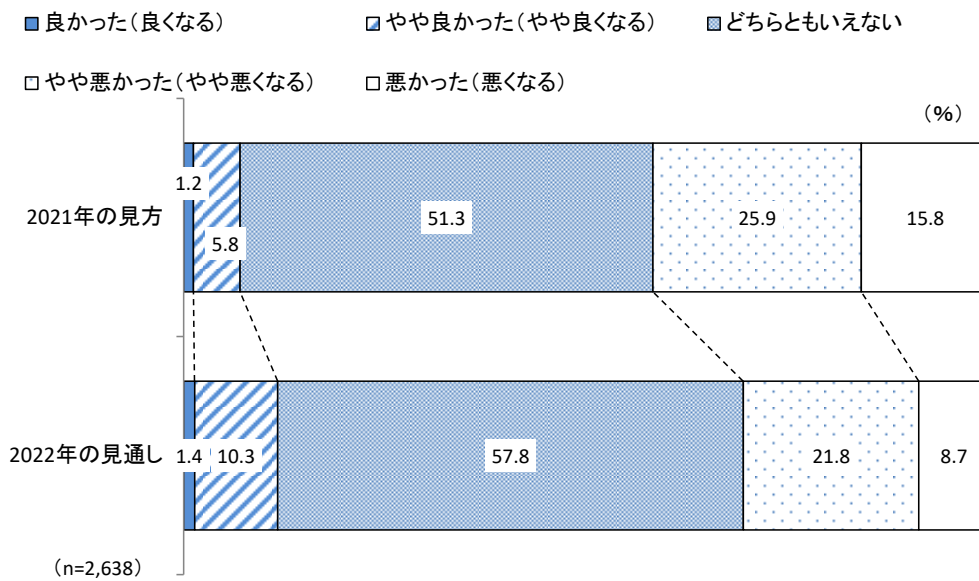


<自身の生活(家計)の見方>

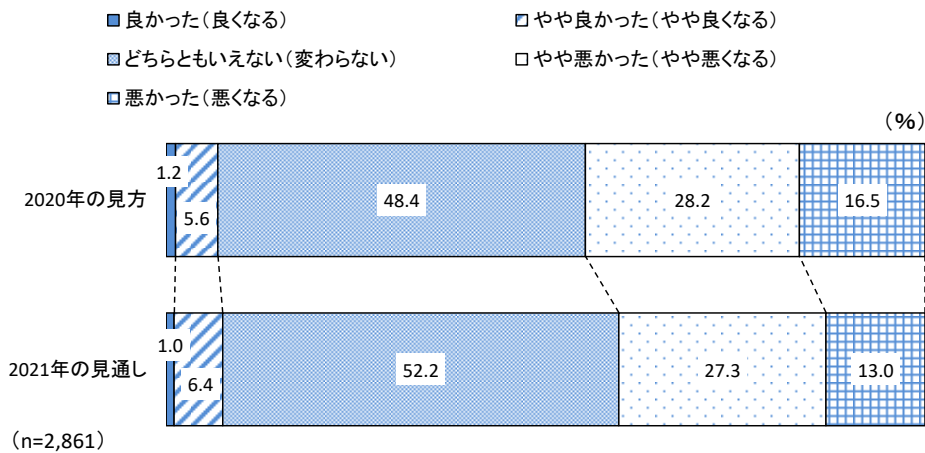
◆ 22年の自身の生活(家計):「悪化」が「改善」を上回る

- ・ 21年の「自身の生活(家計)」は、「悪かった」が15.8%、「やや悪かった」が25.9%となり、「悪い」と感じた割合が4割となった(図表5)。
- ・ 22年の見通しは、「良くなる」が1.4%、「やや良くなる」が10.3%となる一方、「悪くなる」が8.7%、「やや悪くなる」が21.8%となり、「悪化」の見方が「改善」を上回っている。

図表5 自身の生活(家計)の見方



(参考資料) 2020年調査結果

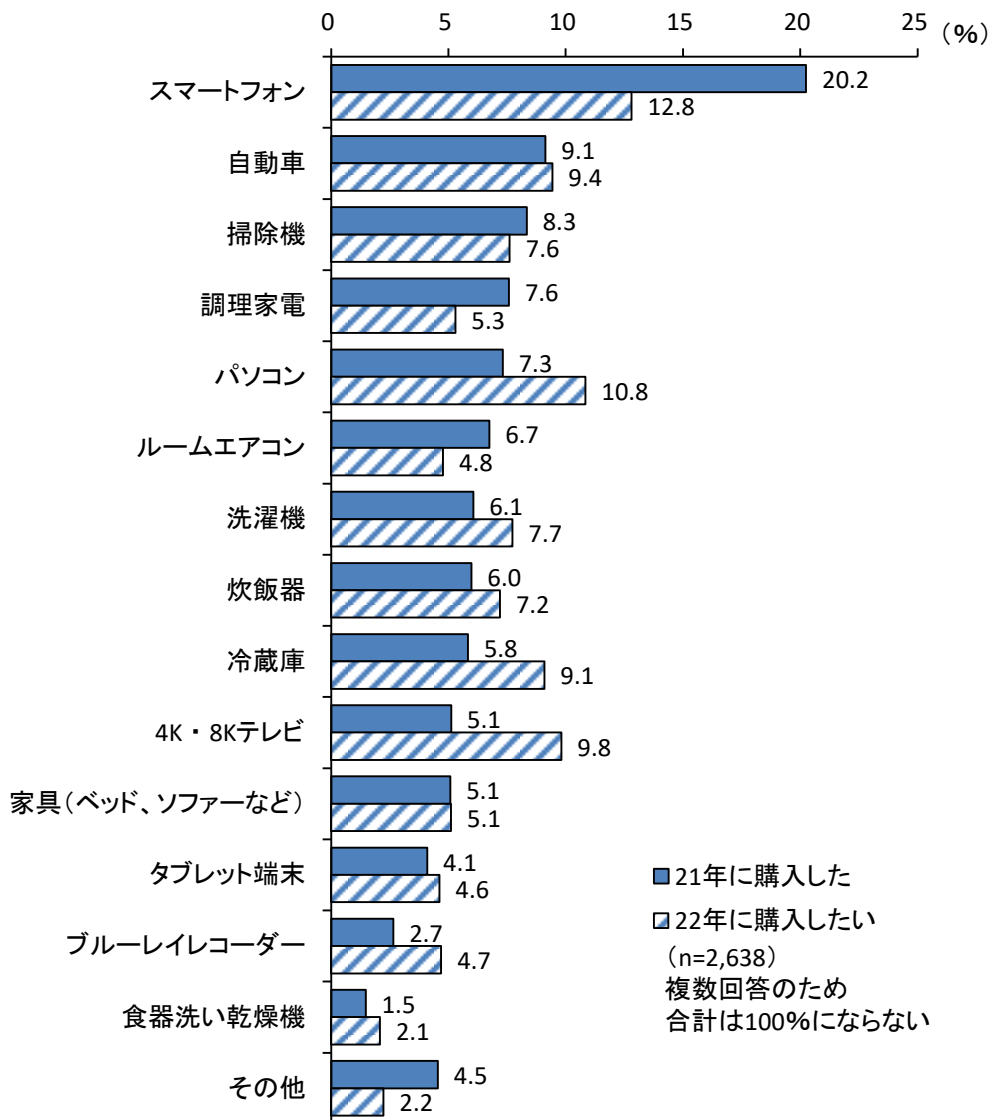


＜耐久消費財の購入意向＞

◆ 22年に購入したい耐久消費財：「スマートフォン」、「パソコン」、「4K・8Kテレビ」が上位

- ・ 21年に購入した耐久消費財は、「スマートフォン」が20.2%と最も多く、「自動車」(9.1%)、「掃除機」(8.3%)、「調理家電」(7.6%)などが続いた(図表6)。
- ・ 22年に購入したい耐久消費財は、「スマートフォン」が12.8%と21年と同様に最も多く、次いで「パソコン」(10.8%)、「4K・8Kテレビ」(9.8%)、「自動車」(9.4%)などとなった。
- ・ 21年に比べ、回答割合が最も大きく増加した22年に購入したい耐久消費財は、「4K・8Kテレビ」(+4.7ポイント)で、次いで「パソコン」(+3.5ポイント)となった。

図表6 「21年に購入した耐久消費財」と「22年に購入したい耐久消費財」

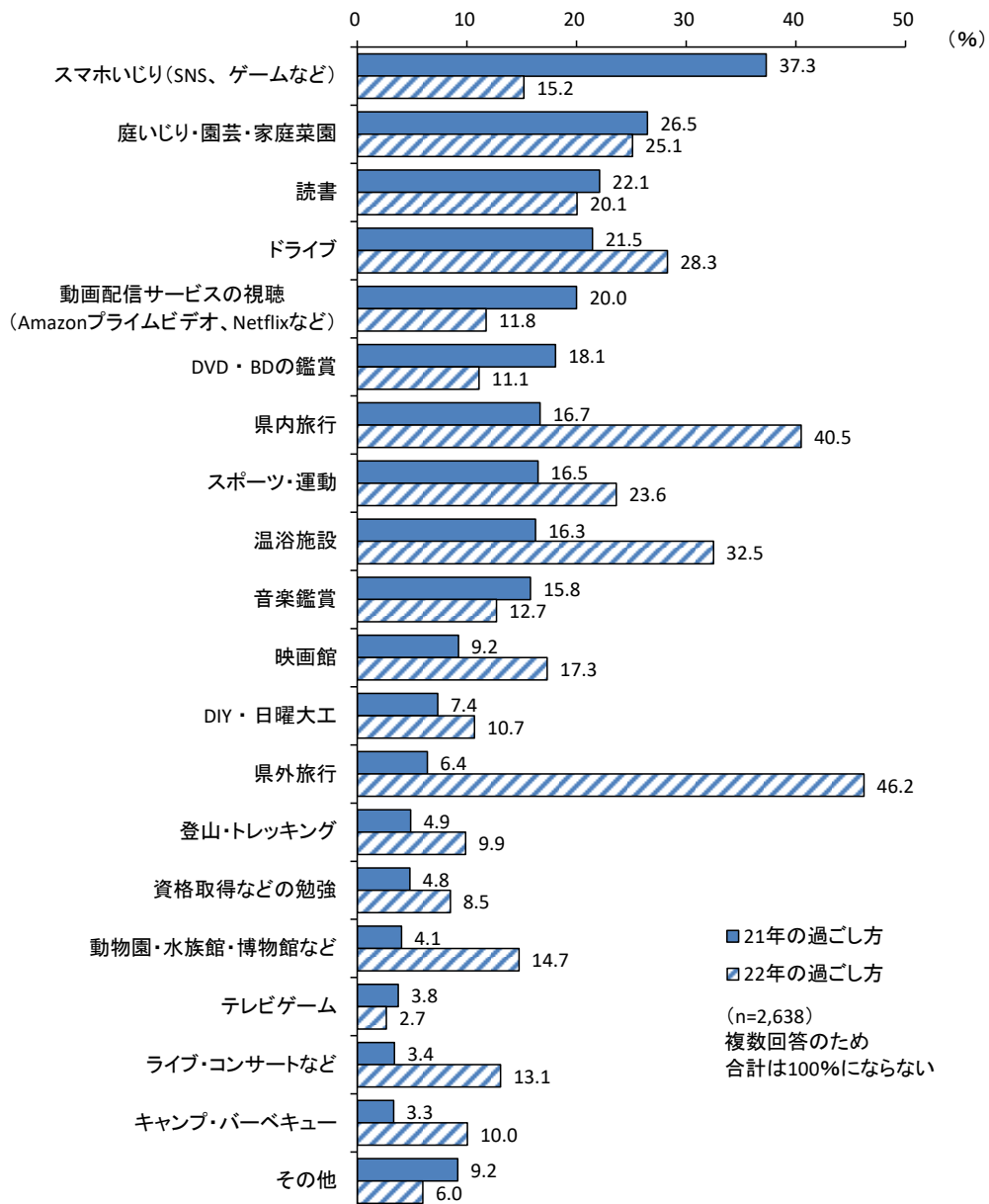


<余暇の過ごし方>

◆ 22年の余暇の過ごし方：「県外旅行」、「県内旅行」、「温浴施設」が上位

- ・ 21年の余暇の主な過ごし方は、「スマホいじり」が37.3%と最も多く、次いで「庭いじり・園芸・家庭菜園」(26.5%)、「読書」(22.1%)など、家庭内での過ごし方が上位となった(図表7)。
- ・ 22年の余暇を主にどのような過ごし方したいかは、「県外旅行」が46.2%と最も多く、次いで「県内旅行」(40.5%)、「温浴施設」(32.5%)など、外出に関する過ごし方が上位となった。
- ・ 21年は新型コロナの感染拡大による度重なる緊急事態宣言などの影響で、家庭内で余暇を過ごすことが多かったとみられる。それに対し22年は、21年に比べ「県外旅行」が39.8ポイント、「県内旅行」が23.8ポイントそれぞれ回答割合が増加しており、旅行への意欲が高まっている。

図表7 余暇の主な過ごし方



■ 21年の過ごし方

▨ 22年の過ごし方

(n=2,638)

複数回答のため

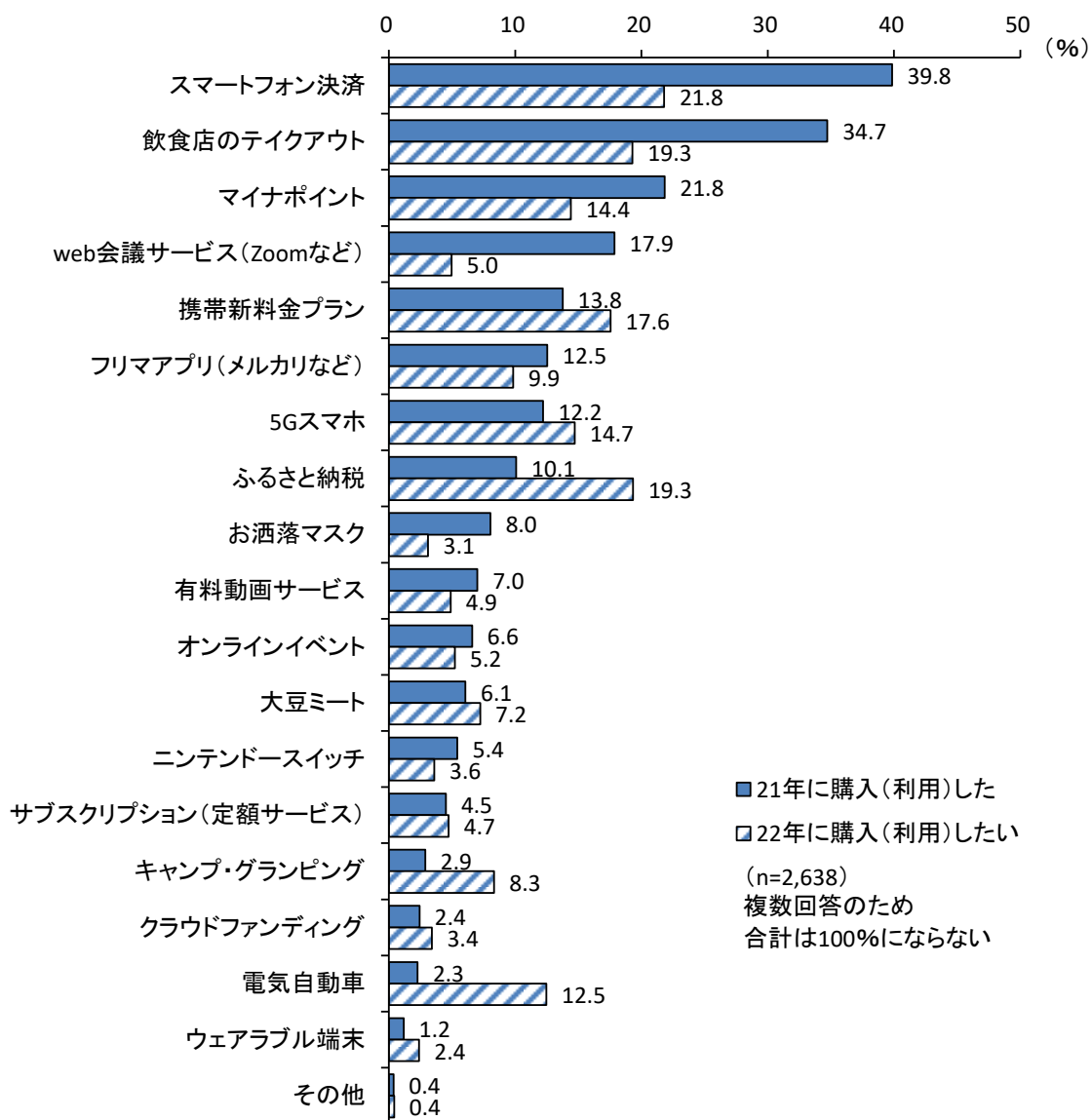
合計は100%にならない

<商品・サービスの購入(利用)経験・意向>

◆ 22年は「電気自動車 (EV)」や「ふるさと納税」の購入(利用)意向が高まる

- ・ 近年話題を集める商品やサービスで、21年に購入(利用)したものは、「スマートフォン決済」が39.8%と最も多く、次いで「飲食店のテイクアウト」(34.7%)、「マイナポイント」(21.8%)、「web会議サービス (Zoom など)」(17.9%) などとなった(図表8)。
- ・ 22年に購入(利用)したい商品やサービスは、「スマートフォン決済」が21.8%と最も多く、次いで「飲食店のテイクアウト」と「ふるさと納税」がいずれも19.3%、「携帯新料金プラン」(17.6%) などとなった。
- ・ 21年に比べ22年の購入(利用)意向が特に高い商品やサービスは、「電気自動車」や「ふるさと納税」で、その回答割合の増加幅は、それぞれ10.2ポイントと9.2ポイントだった。

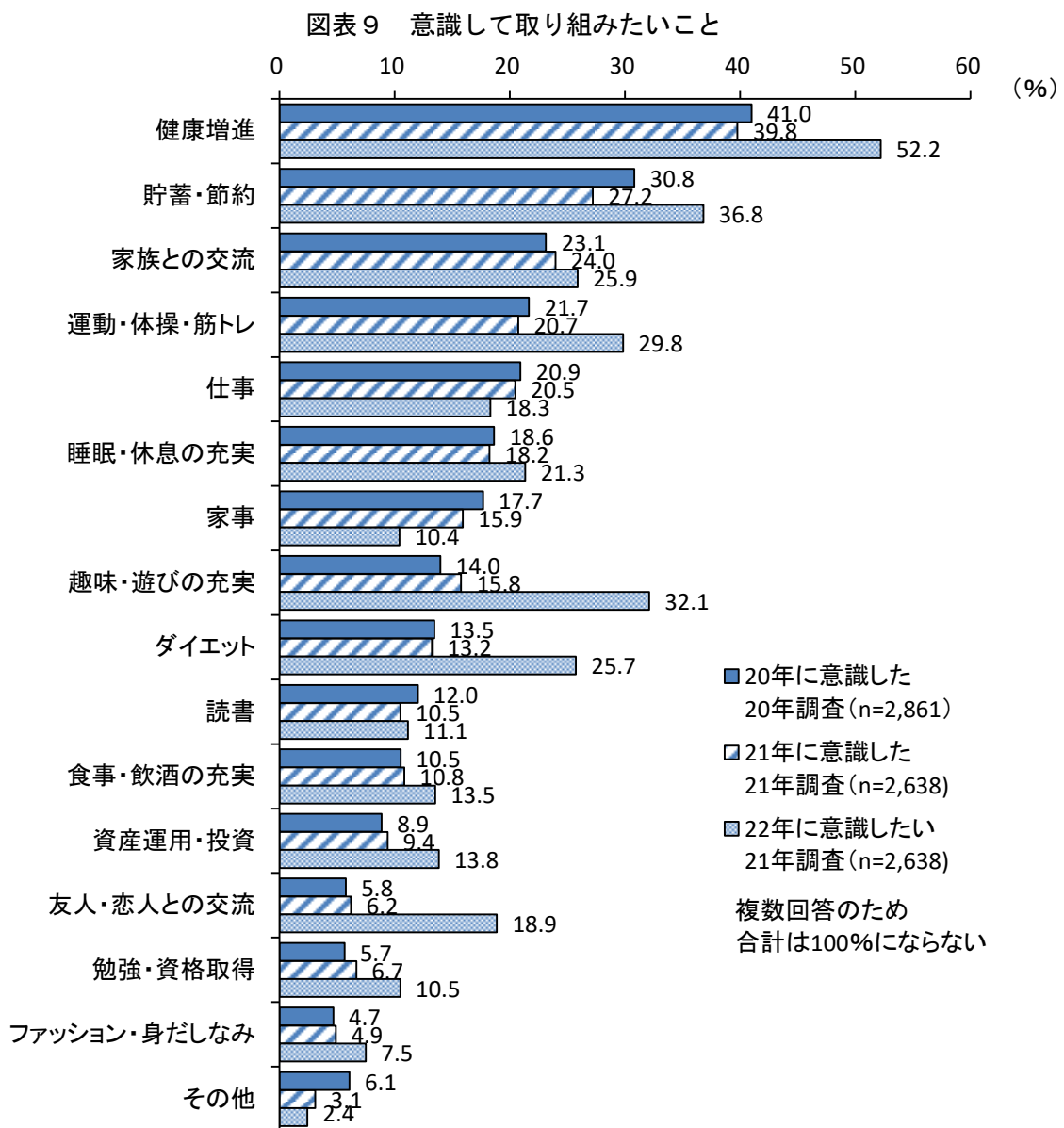
図表8 近年注目される商品やサービス



<意識している取り組み>

◆ 22年は「趣味・遊びの充実」や「友人・恋人との交流」への意識が高まる

- ・ 21年に意識して取り組んだことは、「健康増進」が39.8%と最も多く、次いで「貯蓄・節約」(27.2%)、「家族との交流」(24.0%)などとなった(図表9)。20年調査と同様の結果となり、健康や貯蓄に対する意識が高かった。
- ・ 22年に意識して取り組みたいことは、「健康増進」が52.2%と最も多く、次いで「貯蓄・節約」(36.8%)、「趣味・遊びの充実」(32.1%)などが上位となった。
- ・ 21年に比べ22年の回答割合が特に高い取り組みでは、「趣味・遊びの充実」や「友人・恋人との交流」で、増加幅はそれぞれ16.3ポイントと12.7ポイントだった。

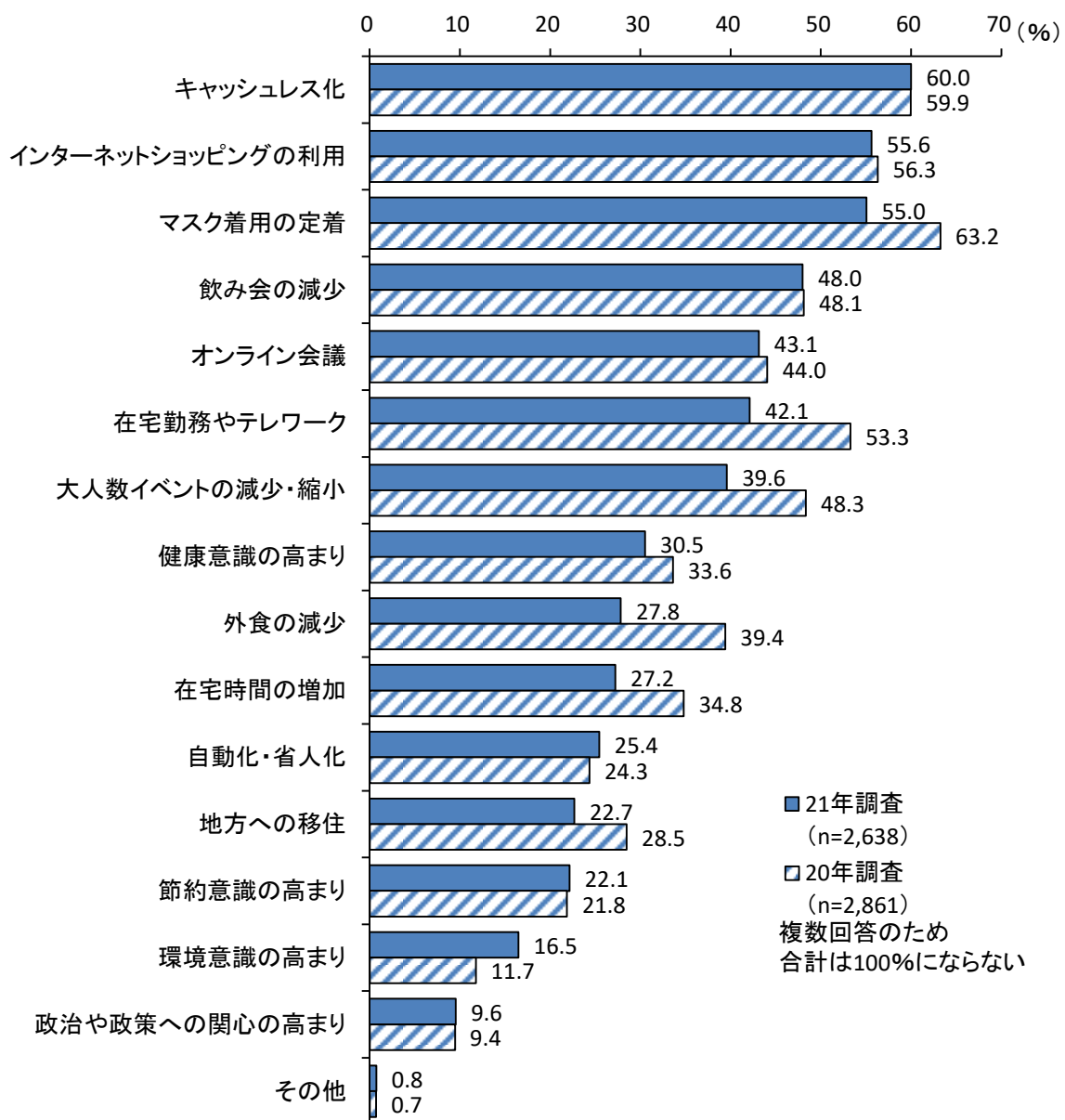


＜新型コロナをきっかけに進むと思う変化＞

◆ 新型コロナをきっかけに進むと思う変化は、「キャッシュレス化」が最多

- ・ 新型コロナをきっかけに進むと思う変化では、「キャッシュレス化」が60.0%と最も多く、「インターネットショッピングの利用」(55.6%)、「マスク着用の定着」(55.0%)、「飲み会の減少」(48.0%)などが続いた(図表10)。
- ・ 20年調査に比べ回答割合が増加した項目は少なく、「環境意識の高まり」や「自動化・省人化」などとなった。逆に大きく減少した項目は、「外食の減少」や「在宅勤務・テレワーク」などで、減少幅はそれぞれ△11.6ポイント、△11.2ポイントだった。

図表10 新型コロナをきっかけに進むと思う変化

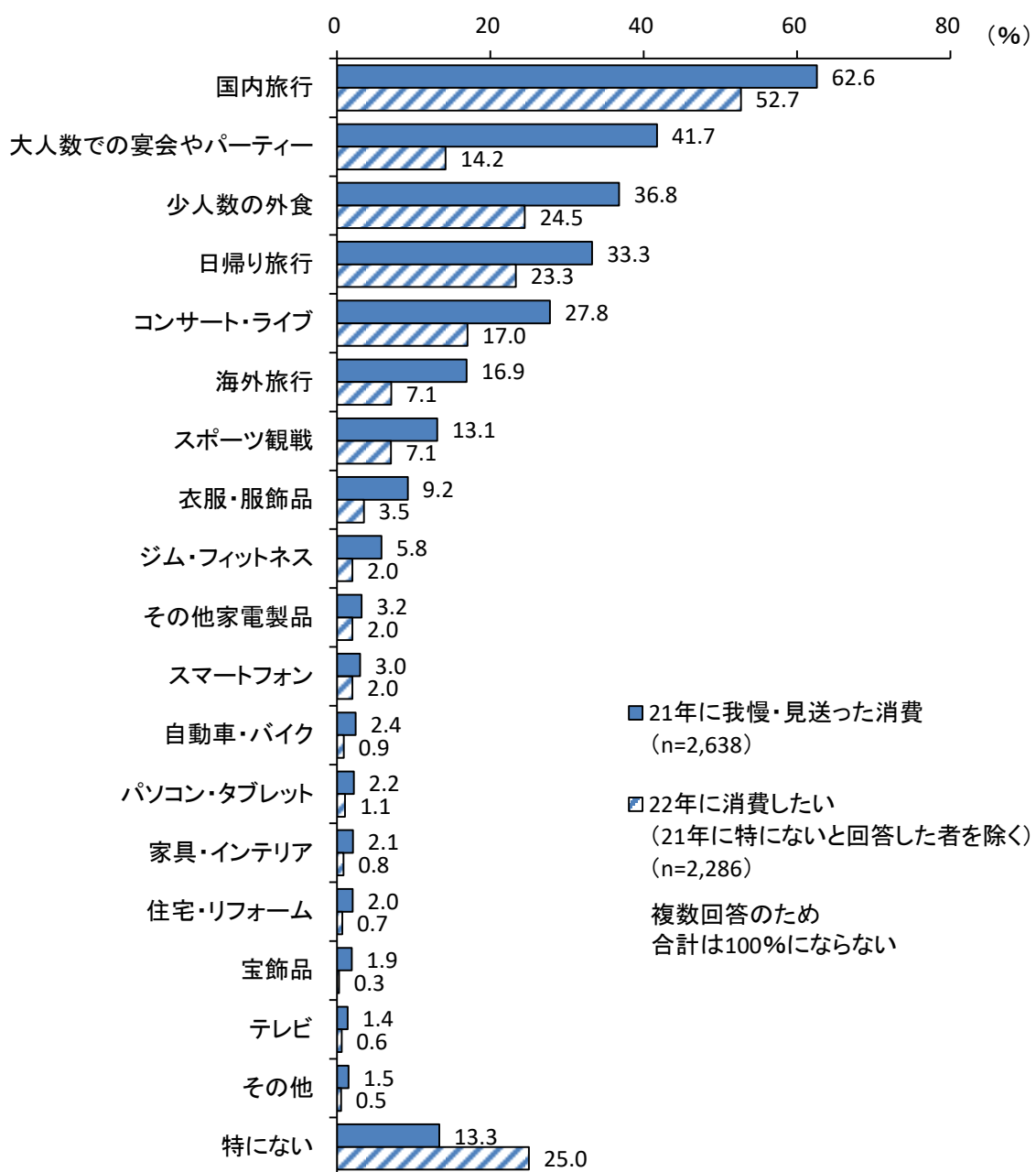


<新型コロナの影響で我慢・見送った消費>

◆ 6割が新型コロナの影響で国内旅行を我慢・見送り

- ・ 新型コロナの影響で21年に我慢・見送った消費は、「国内旅行」が62.6%と最も多く、次いで「大人数での宴会やパーティー」(41.7%)、「少人数の外出」(36.8%)、「日帰り旅行」(33.3%)などとなった(図表11)。
- ・ 改めて22年に消費したいとする回答割合は、「国内旅行」が52.7%と最も多く、次いで「少人数の会食」(24.5%)、「日帰り旅行」(23.3%)などとなった。

図表11 21年に我慢・見送った消費と改めて22年に消費したいこと



以上